



マンスリータイムズ みはま 7月号②

平和ってなんだろう?~平和学習~

7月24日(月)、二学部では今年度も被爆体験伝承者等派遣事業を活用し、平和学習を行いました。証言者の杉本伸一さん(長崎県出身)は実際の被爆者である丸田和男さんの被爆体験を引き継ぐために全国各地を回っておられます。原爆のとてつもないエネルギーや恐ろしい被爆体験、平和への思いを臨場感たっぷりに語って頂きました。



今から78年前の8月9日に長崎に落とされた原爆の爆風により丸田さんの家は完全に倒壊し、お母さんは玄関先で立ち話中に原爆の爆風の直撃を受け即死したという事でした。爆心地付近は見わたす限り焼野原となり、男女の区別もつかない、無残な、おびただしい黒焦げ死体まがころがっていたのが今でも瞼に焼き付いているそうです。丸田さん自身も家の下敷きになり大けがを負われたそうです。

児童生徒は、息を呑みながら杉本さんの話に聞き入っていました。講演後の感想文には「被爆は言葉に表せないぐらいに怖い」「自分では耐えられないと思った」「自分だけが生き残ってしまっても亡くなった人の分まで生きるというのはとてもすごい」「自然災害はどうしようもないことだけど、戦争は人間自身でふせげること」等、一人一人が思いを受け止め、自分なりの考えを深められていました。

最後にある生徒から「平和になるにはどうしたらいいですか?」と質問がありました。「まずは身近な友達や家族に対して思いやりをもって接してください。それが広がっていくことが平和につながりますよ。」とのメッセージを杉本さんから頂きました。

8月15日は終戦記念日です。年に一度のこの機会に、みなさんもぜひ平和について身近な人と一緒に考えてみませんか。

防災シミュレーション訓練を実施!

7月21日(金)、学校に隣接する和歌山病院5階屋上にて、教職員による防災シミュレーションを行いました。今後想定される大規模な地震や津波が発生した場合、本校では病院5階屋上に一次避難をします。今回の訓練では、津波が引くまでの数日間を5階屋上で過ごす想定し、備蓄している防災用物品のシート等を使用しながら、暑さ、寒さ、風雨をしのげる方法を実践的に考えることを目的に活動を行いました。



その場でグループに分かれ、意見を出し合いながら、屋上の鉄柵などを活用し、ブルーシートやひもで日陰をつくり、その場で話し合いがでる環境を作り出しました。シートの高さや張り具合など、試行錯誤しながら作業を進めていきました。



この日は、午前中の早い時間に設定し、風も吹いていましたが、警戒レベルの暑さや、寒い時期、雨の場合を考え、今後必要な物品や、対策について、新たな課題を見つけることができました。いつ起こるか分からない災害に向けて、できる限りの備えと対策を考えていかなければならないと改めて思いました。

みはま”be yourself”プロジェクト 始動!

和歌山県教育委員会では各学校の「活力ある学校作り」を支援するため、「わかやまスクールパワーアップ事業」を実施しています。本校でも、今年度この事業を活用し、さまざまな体験活動や学習活動を通じて、自分らしく生きるヒントを学ぶ「みはま”be yourself”プロジェクト」に取り組んでいきます。マンスリータイムズ6月号②で紹介したTETAU事業協同組合と連携した授業をはじめ、美浜町中央公民館の協力をいただきながら、みはまのみんながワクワクする活動を計画中です。